

週刊 全国賃貸住宅新聞

発行所 株式会社全国賃貸住宅新聞社 東京都中央区銀座8-12-15 (支局)大阪 http://zenchin.com
TEL03(3543)6494(代表)・03(3543)6761(編集部) 発行人 河内 鈴 (毎週月曜日発行) 年間購読料17,000円

2018年
2・26
No. **1308**
毎週月曜日発行

譜の目

複数の家主と議論をする場に出席した。初対面でも同じ賃貸経営者であれば、共通の悩みを持っているため自然と話が弾んでいた。
博識で紳士的な男性の家主に「エリアを問わず過剰に共有されている賃貸住宅の現状をどう思うか」と問われた。世の中の商品やサービスの多くは、消費者のニーズを考慮して生産される。賃貸住宅の多くは、相続税の節税という自己都合によって産出されてしまう。もともと供給する側が消費者を見ていない業界であり、需給バランスが崩れるのは当然のこと。この回答に、はたして納得してもらえただろうか。

TOPICS

空き家や遊休不動産を活用しまちに活気を与えたいと家主と学生が共同で取り組むプロジェクトが進んでいる。学生ならではの若い発想や価値観が地価の魅力向上に貢献していく。

女子大生と畑でマルシェ

小学校の裏にある空地に小さなお店が一日限定でオープンした。畑で獲れた野菜を売ったり、入浴剤を作るワークショップを開いている。これは小さな市場「マルシェ」だ。近所の子供たちや通りかぎりの高齢者、小学校の校庭で野球を応援していた家族などが自然とお店の周りに集まってきた。

大学周辺の空室をリノベ

福岡県では学生と家主が大学周辺の空室を埋めようと動き出した。16日、福岡大学(以下、福大)にて「DIYリノベーション」で起こす賃貸革命

家主と学生で取り組む不動産活用

科の依田真美准教授だ。

神奈川県相模原市で20日、遊休不動産を活用しようとする家主と学生が発案

科の依田真美准教授だ。渋谷オーナーがマンションで行ったDIYイベントの様子をSNSで紹介し、地域活性化や人と町がつながる観光業への見聞を深めている依田准教授が関心を持ったのがきっかけだ。

「この場所では学生と家主と一緒に人が集まるさまざまな企画を考えていたら」と渋谷オーナーは語った。

これら地域課題を画だ。西野助教は、「さまざまにリノベーションする新入生向けにリノベが立ち上がった。シンポジウムでは学生たちがリノベーションプランを発表した。

家族で作ったダイコンが食べきれなくて余っている。近所の農家さんが生産したさといも

若い世代の価値観や発想を遊休不動産の活用には反映させることで、その地域ならではの魅力と価値を増していくだろう。



小さな手作りのお店がなつマルシェ



リノベーションプロジェクトを発表する学生

「この場所では学生と家主と一緒に人が集まるさまざまな企画を考えていたら」と渋谷オーナーは語った。福岡市は、九州中から進学や就職などの転入

(平田美帆)